

教材・支援機器活用実践事例

【児童自らの活動を引き出すための支援～粘土遊び導入編～】

	実施年度	平成28年度
授業について	教科名等	自立活動
	単元・題材名	むにゅむにゅねんどにさわってみよう
	授業における教師のねらい	<p>○異なる色を見比べて選び、視線を向けたり、手を伸ばしたりするなど、自分なりの方法で周囲に伝える力を育むー「環境の把握」(1)、「コミュニケーション」(1)</p> <p>○素材の形が変化する様子に目を向け、指や手のひらにつけたり、紙面の上で伸ばしたりするなど、手の動きを促すー「環境の把握」(1)、「身体の動き」(1)</p>
授業における子どもの目標	<p>○色の異なる粘土を見て、視線を向けたり、手を伸ばしたりするなど、自分なりの方法で選ぶことができる。</p> <p>○袋を握り、柔らかい粘土を絞り出したり、出てきた粘土に視線を向けて手を伸ばして触れたりすることができる。</p>	
子どもについて	学級・学校・学年	特別支援学校 小学部 低学年
	対象の障がい	肢体不自由 知的障がい
	授業形態	個別指導
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・物を握る、放す、手のひらや手の甲でテーブルの面をなでるような動きがある。 ・ガラガラなど音が鳴る小さな玩具を握り、振って音を出すことはあるが、粘土などの素材に触れる経験は少ない。
教材・支援機器活用	使用した教材・支援機器の名称	 <p>「むにゅむにゅねんど」 保冷袋（密閉タイプ）に紙粘土と水を入れ、ダマがなくなるまで均等に混ぜ合わせる。児童の握力等に応じて水の量を加減し、固さを調整しておく。 袋の一端を切り取り、粘土の絞り口にする。</p>
	活用のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての粘土の感触に、不安になることもあるので、導入の場面で使用した。袋を握って出てきた粘土に視線を向けながら、興味関心を引き出し、自分から手を伸ばすように促す。
授業における支援 ・教材の配慮事項		<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分の力で袋を握り、粘土を絞り出すことを意識できるように、教師の援助は、下から腕を支えるなど、最小限にする。 ・口に入れる心配がある場合は、紙粘土ではなく、食紅で色を付けた小麦粉粘土を使用する。
子どもの変容や評価		<ul style="list-style-type: none"> ・異なる色の粘土を提示すると、見比べたり手を伸ばしたりするようになった。 ・繰り返し活動を行う中で、自分から絞った粘土に手を伸ばし、手元を見ながら感触を確かめるような表情で指先や手のひらを動かす姿や、笑顔で声を出す姿が見られるようになった。

